

「首相の趣味」身内も批判

安全保障に関する国家機密の漏えいに厳罰を科す特定秘密保護法案について、自民党衆院議員の村上誠一郎元行革担当相(61)が毎日新聞の取材に「財政、外交、エネルギー政策など先にやるべきことがあるのに、なぜ安倍晋三首相の趣味をやるのか」と述べ、今国会での成立を目指す安倍内閣の姿勢を痛烈に批判した。25日の閣議決定を前に、法案に身内から強い反発が出た形だ。

【青島頭】

特定秘密保護法案



村上誠一郎
元行革担当相

村上氏は特定秘密保護法案と国家安全保障会議(日本版NSC)設置法案について「戦争のために準備をするのか。もっと平和を考えなければいけない」と懸念を表明。さらに「(特定秘密保護

法案には)報道・取材の自由への配慮を明記したが、努力規定止まりだ。本間に国民の知るべき情報が隠されないか、私も自信がない。報道は萎縮する。基本的人権の根幹に關わる問題だ」と、国民の「知る権利」が侵害を受け、危険性に言及した。

えなくなっている」と話した。衆院本会議での採決については「懸念する点があるかどうかわか」と審議を見守る考えを示した。

案了承に反対の意向を示した。村上氏は「党総務会は官邸の意向を振りかざし、熟議のないまま進んでいる。慎重な上にも慎重にしなければいけない」と合意を急いだ党運営を批判。退席者が自分一人だったことには「小選挙区制では党が公認、カネ、人事の権限を握る。政治家の良心として、言わねばならないことも言案への懸念を示す意見書を出した。」

村上氏「財政・外交などが先」